

2022年3月期 決算
決算説明会

2022年4月28日

株式会社 トクヤマ



2022年3月期決算のポイント

- 2022年3月期は、半導体関連製品・ヘルスケア関連製品などの堅調な販売や、石化製品の販売価格上昇などにより対前期比で実質増収であったものの、原燃料価格や物流費などのコスト増により減益
- 2023年3月期見通しは増収ながら、更なる原燃料コストの上昇を見込み、営業利益は前期並み。
価格修正・コスト削減等の施策を進め、収益確保に努める
- 成長戦略の着実な実行により、中期経営計画2025の目標達成に注力

CONTENTS

- ① 2022年3月期 決算
- ② 2023年3月期 業績予想
- ③ 「中期経営計画2025」進捗
- ④ 補足資料

① 2022年3月期 決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高／営業利益
3. 営業利益増減分析



1. 決算概要

(億円)

	2021年3月期 収益認識基準適用：無	2022年3月期 収益認識基準適用 上段：有、下段：無	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,024	2,938	△85	△3	石化製品価格上昇 半導体関連製品の販売堅調
		3,403	+379	+13	
営業利益	309	245	△63	△21	原燃料コスト増加
経常利益	307	258	△49	△16	営業利益の減少
親会社株主に帰属する 当期純利益	245	280	+34	+14	税金費用の減少
1株当たり 当期純利益 (円)	351.11	389.09	-	-	-
為替 (円/\$)	106	112	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kl)	31,200	56,800	-	-	-

1. 決算概要

(億円)

	2021年3月末	2022年3月末	増 減	主要な変動要因
総資産	3,867	4,332	+464	単価アップに伴うたな卸資産・設備投資に伴う固定資産の増加
自己資本	1,985	2,245	+259	親会社株主に帰属する当期純利益の積み上げ
自己資本比率	51.3%	51.8%	+0.5ポイント	-
有利子負債	984	1,092	+107	社債の発行
D/Eレシオ	0.50	0.49	△0.01	-
ネットD/Eレシオ*	0.07	0.12	+0.04	-
1株当たり純資産 (円)	2,758.37	3,120.25	-	-

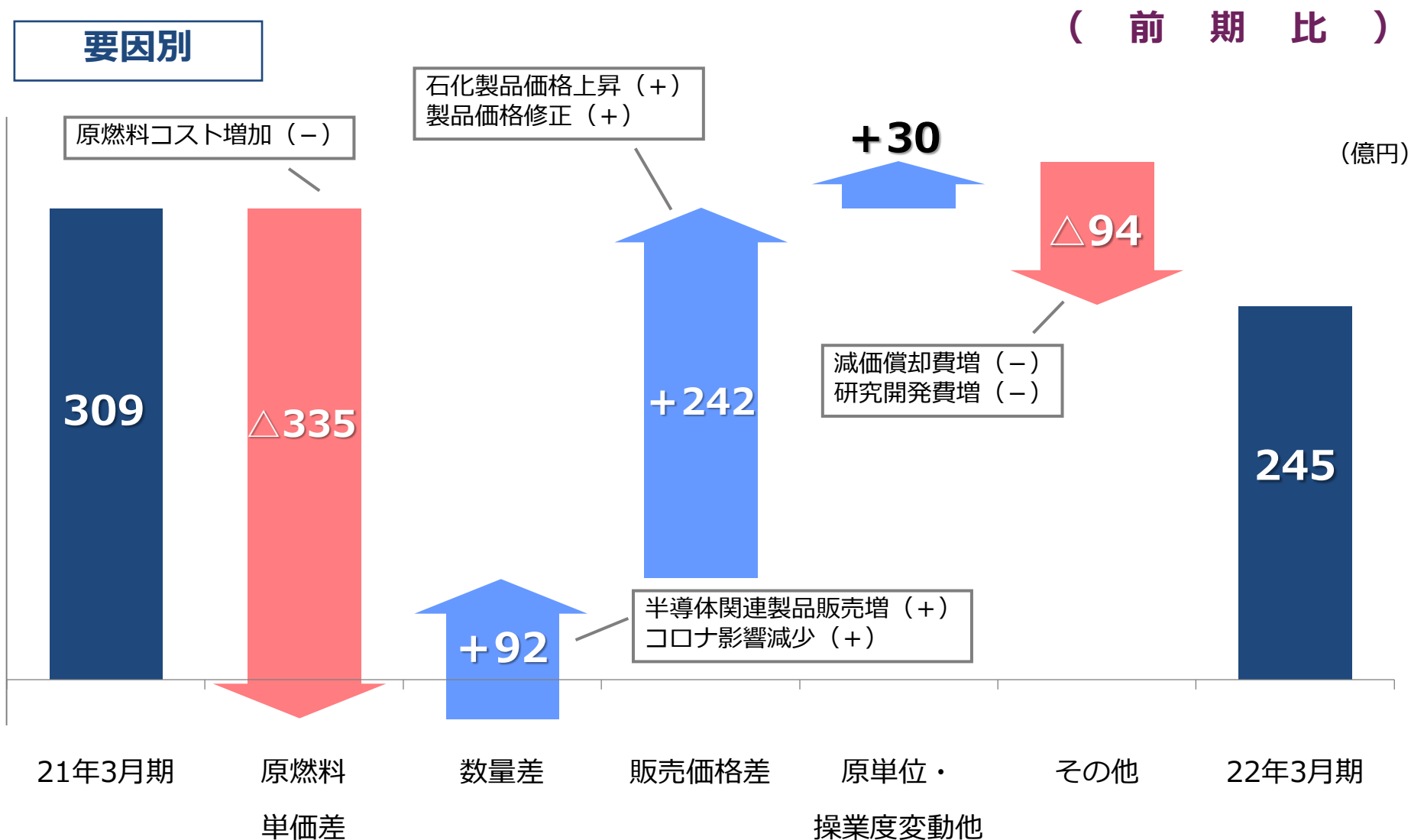
*ネットD/Eレシオ：（有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託）／自己資本

① 2022年3月期 決算

2. セグメント別売上高／営業利益 (前期比) (億円)

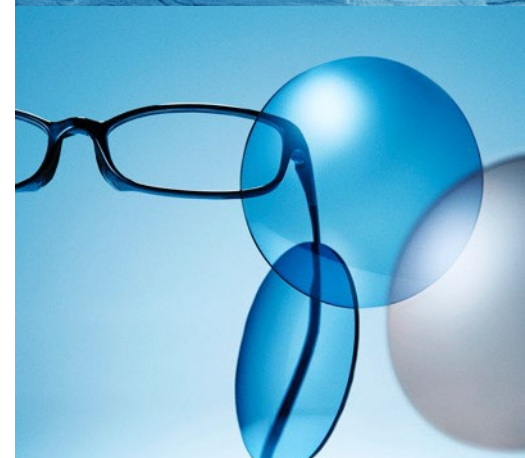
	2021年3月期 収益認識基準適用：無		2022年3月期 収益認識基準適用 上段：有 下段：無		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	813	135	1,014 1,028	142	+200 +214	+25 +26	+6	+5
セメント	895	44	503 940	△19	△392 +44	△44 +5	△63	-
電子材料	618	71	749 752	72	+131 +133	+21 +22	+1	+2
ライフサイエンス	286	34	335 335	60	+49 +49	+17 +17	+25	+73
環境事業	95	△3	103 110	△4	+7 +14	+8 +15	△1	-
その他	623	56	363 605	38	△260 △18	△42 △3	△18	△32
計	3,334	339	3,070 3,772	289	△264 +438	△8 +13	△49	△15
セグメント間 消去・全社費用	△310	△30	△131 △369	△44	+178 △58	-	△13	-
連結決算	3,024	309	2,938 3,403	245	△85 +379	△3 +13	△63	△21

3. 営業利益増減分析



② 2023年3月期 業績予想

1. 業績予想のポイント
2. 業績予想
3. セグメント別業績予想
4. 営業利益増減分析
5. 投資計画



1. 業績予想のポイント

- 2023年3月期業績予想の前提条件は下記のとおり

為替	125円/\$
国産ナフサ価格	上期：88,000円/kℓ 下期：68,000円/kℓ

- 売上高は、化成品やセメントなどの価格修正、および半導体関連製品などの拡販により増収予想。一方、営業利益は原燃料コストの増加等により2022年3月期並みを見込む。
価格修正・コスト削減等の施策を進め、収益確保に努める

2. 業績予想

(当 期 比)

(億円)

	2022年3月期実績 収益認識基準適用：有	2023年3月期予想 収益認識基準適用：有	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	2,938	3,600	+661	+23	化成品・セメント価格修正 半導体関連製品販売堅調
営業利益	245	245	△0	△0	先行投資の増加 原燃料コスト増加
経常利益	258	250	△8	△3	営業外損益の悪化
親会社株主に帰属する 当期純利益	280	175	△105	△38	税金費用の増加
1株当たり 当期純利益 (円)	389.09	243.22	-	-	-
為替 (円/\$)	112	125	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kl)	56,800	上期：88,000 下期：68,000	-	-	-

3. セグメント別業績予想

(当 期 比)

(億円)

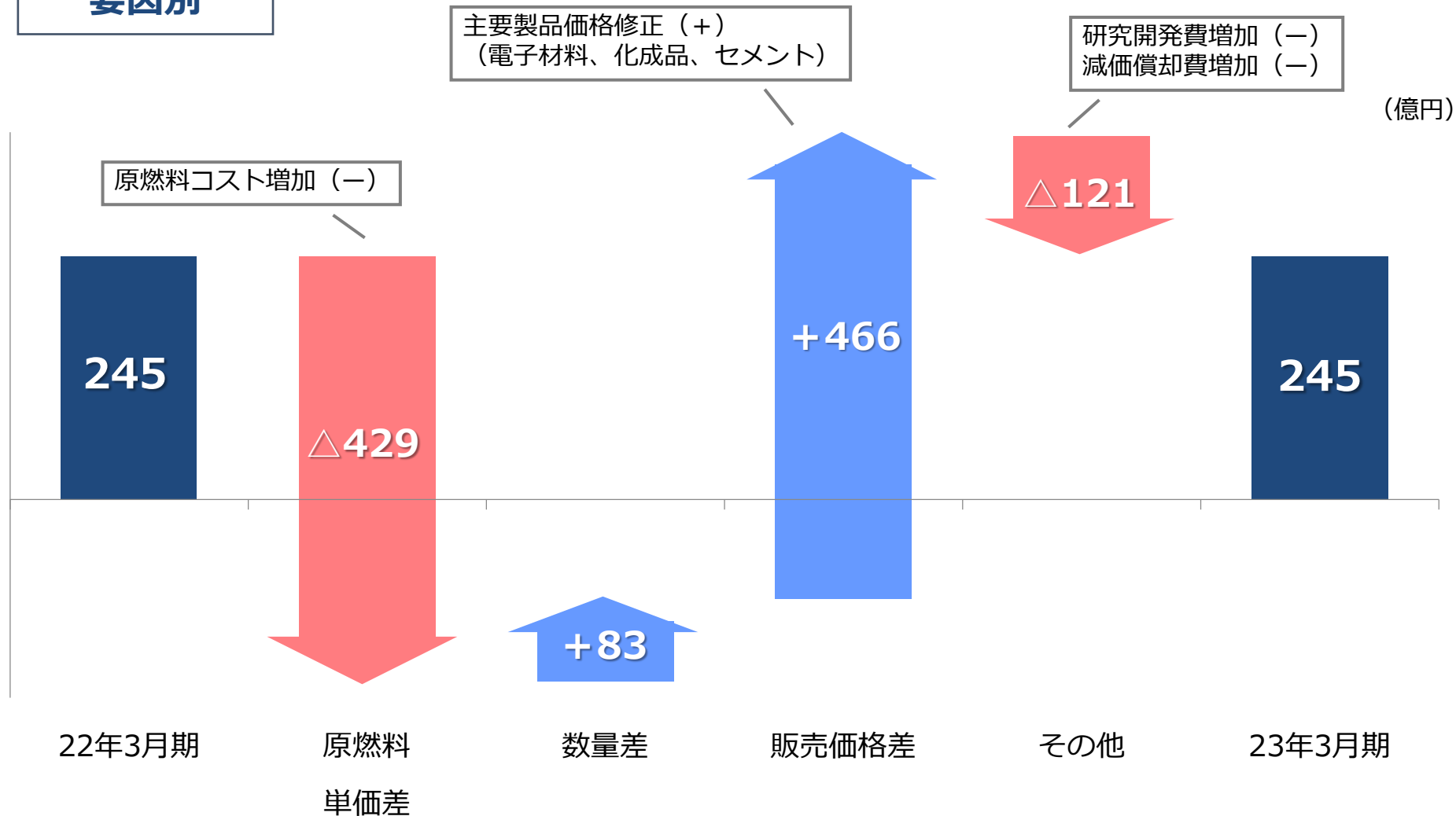
	2022年3月期 実績 収益認識基準適用：有		2023年3月期 予想 収益認識基準適用：有		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	1,014	142	1,255	160	+240	+24	+17	+12
セメント	503	△19	630	△15	+126	+25	+4	-
電子材料	749	72	935	70	+185	+25	△2	△3
ライフサイエンス	335	60	350	60	+14	+4	△0	△1
環境事業	103	△4	150	0	+46	+46	+4	-
その他	363	38	415	25	+51	+14	△13	△35
計	3,070	289	3,735	300	+664	+22	+10	+3
セグメント間 消去・全社費用	△131	△44	△135	△55	△3	-	△10	-
連結決算	2,938	245	3,600	245	+661	+23	△0	△0

(注) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

4. 営業利益増減分析

(当期比)

要因別



5. 投資計画

連 結

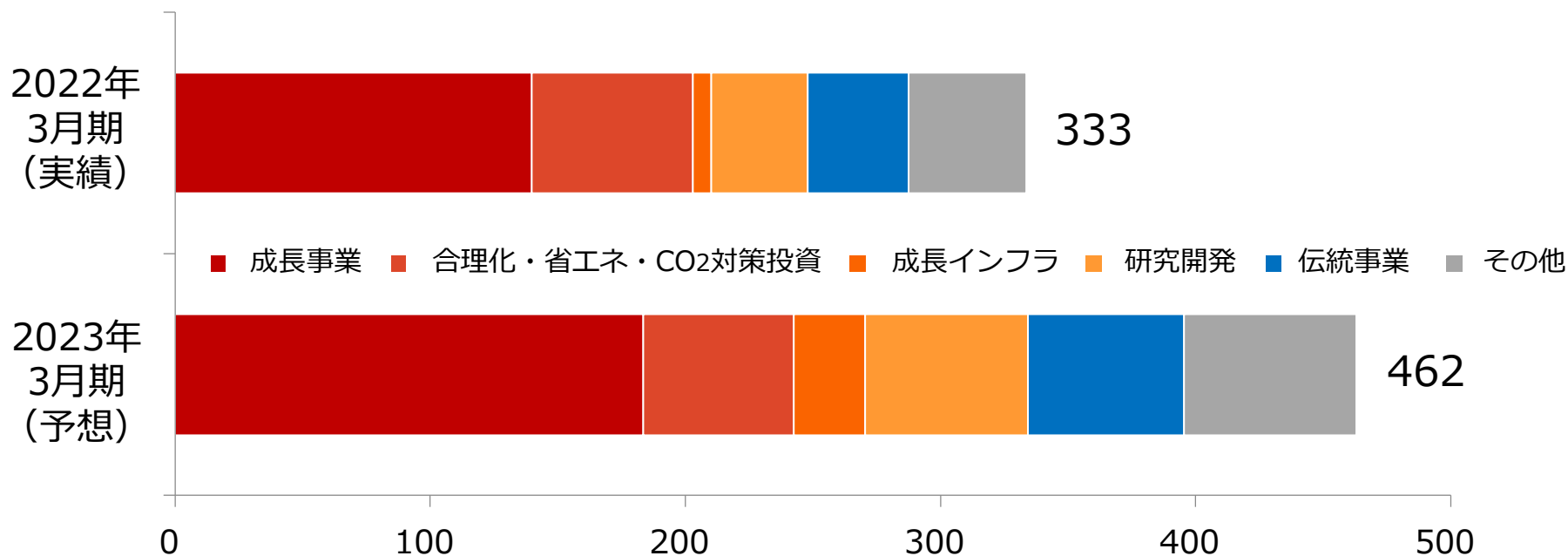
(億円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増 減
設備投資額	333	462	+129
減価償却費	197	227	+30
研究開発費	126	143	+17

5. 投資計画

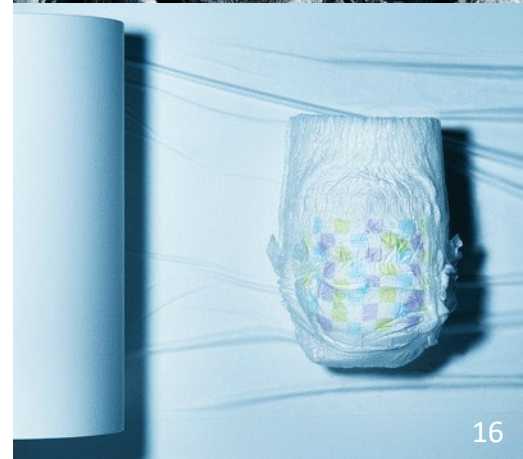
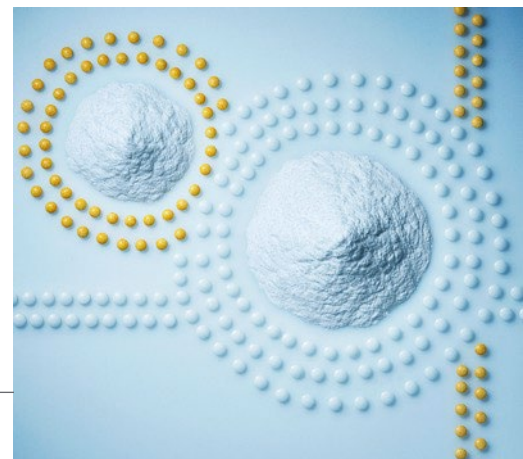
設備投資 主な案件

2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (予想)
高純度IPA 台湾JV工場建設	高純度IPA 韓国JV工場建設他
窒化ケイ素生産設備導入	研究基盤拡充
多結晶シリコン品質向上	Si・シリカ・シラン関連投資
徳山化工 高純度薬品設備導入	電解技術関連投資

投資金額
(億円)

③ 「中期経営計画2025」進捗

1. 「中期経営計画2025」進捗
2. 事業ポートフォリオの転換
3. 地球温暖化防止への貢献
4. CSR経営の推進
5. 株主還元



1. 「中期経営計画2025」進捗

進捗状況

1

事業ポートフォリオの転換

成長事業の連結売上高比率50%以上

- ・ 成長事業へのリソース投入
- ・ 国際展開加速

2

地球温暖化防止への貢献

次世代エネルギーの技術開発を加速、事業化
2030年度にCO2総排出量30%削減*

- ・ 化石燃料代替エネルギー
シナリオ検討

3

CSR経営の推進

「ありたい姿」実現に向け、成長の土台となる
マテリアリティへの取り組みを強化

- ・ CSR体制の強化

* 基準年2019年度

2. 事業ポートフォリオの転換

➤ 「電子」「健康」「環境」への注力

成長分野	進捗概要	
電子	ICケミカル	<ul style="list-style-type: none"> 台湾FTAC社、22年度1Q出荷予定へ 韓国JV契約締結（2024年度稼働予定）
	シリコン	<ul style="list-style-type: none"> 高品質化対応投資
	シリカ	<ul style="list-style-type: none"> シリカ・シラン増強投資
	放熱材	<ul style="list-style-type: none"> 窒化ケイ素（粉・板）2022年度出荷開始 放熱フィラー出荷開始

2. 事業ポートフォリオの転換

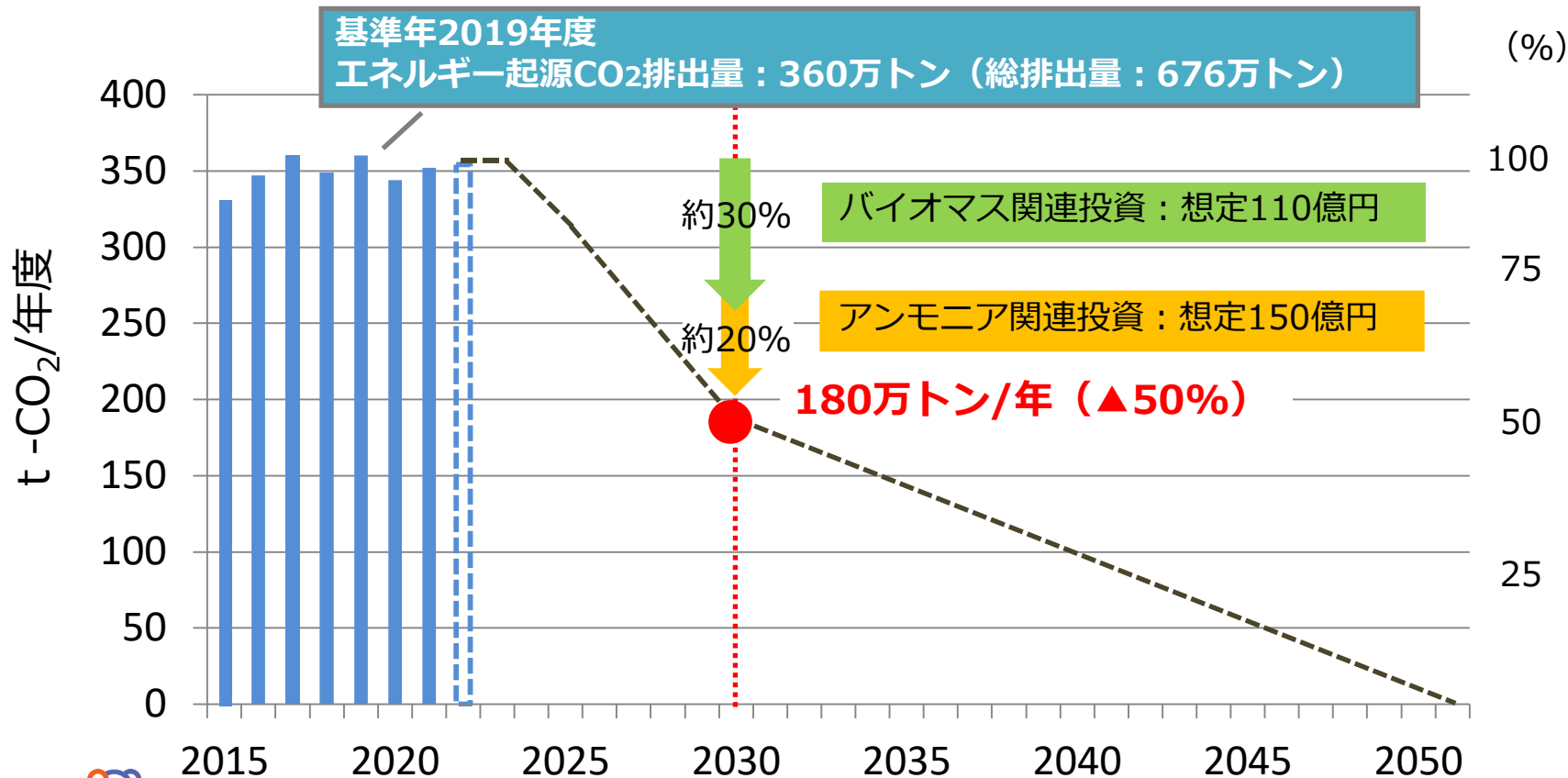
➤ 「電子」「健康」「環境」への注力

成長分野	進捗概要	
健康	歯科器材	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンポジットレジン世界展開（米国シェア5%達成、海外売上高比率70%達成、2025年度に対2020年度比で120%成長） ・ 鹿島工場増設完了 更なる拡張計画
	原薬・中間体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特有技術でGE⇒創薬へ展開
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試薬開発による診断項目の拡大
	プラスチックレンズ関連材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ レンズメーカーとの連携強化で世界シェア25%超へ
環境	廃石膏ボード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3拠点設立（北海道室蘭：2023年春稼働予定）
	イオン交換膜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備増強
	太陽光パネル	<ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクル技術開発
	資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃プラ受け入れ増量

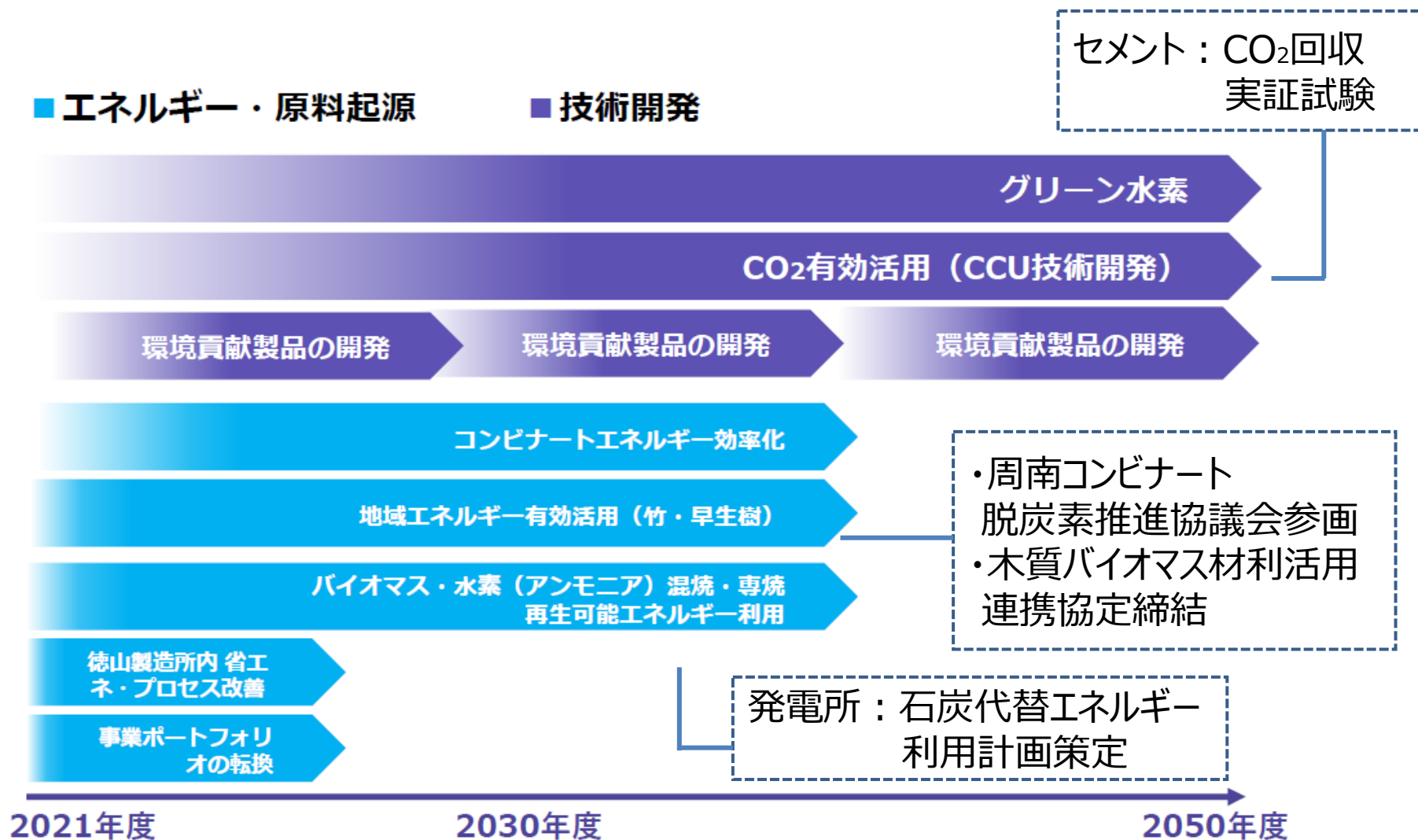
3. 地球温暖化防止への貢献

エネルギー起源CO₂排出の削減計画

- 2022年度の排出見込みは2021年度排出量並み（2019年度比▲26万トン）
- バイオマス・アンモニア関連の投資を進め非化石燃料使用の増加により、2023年度以降から本格的にCO₂排出量削減
- 将来想定されるカーボンプライシングとCO₂削減投資の経済合理性で柔軟に対応

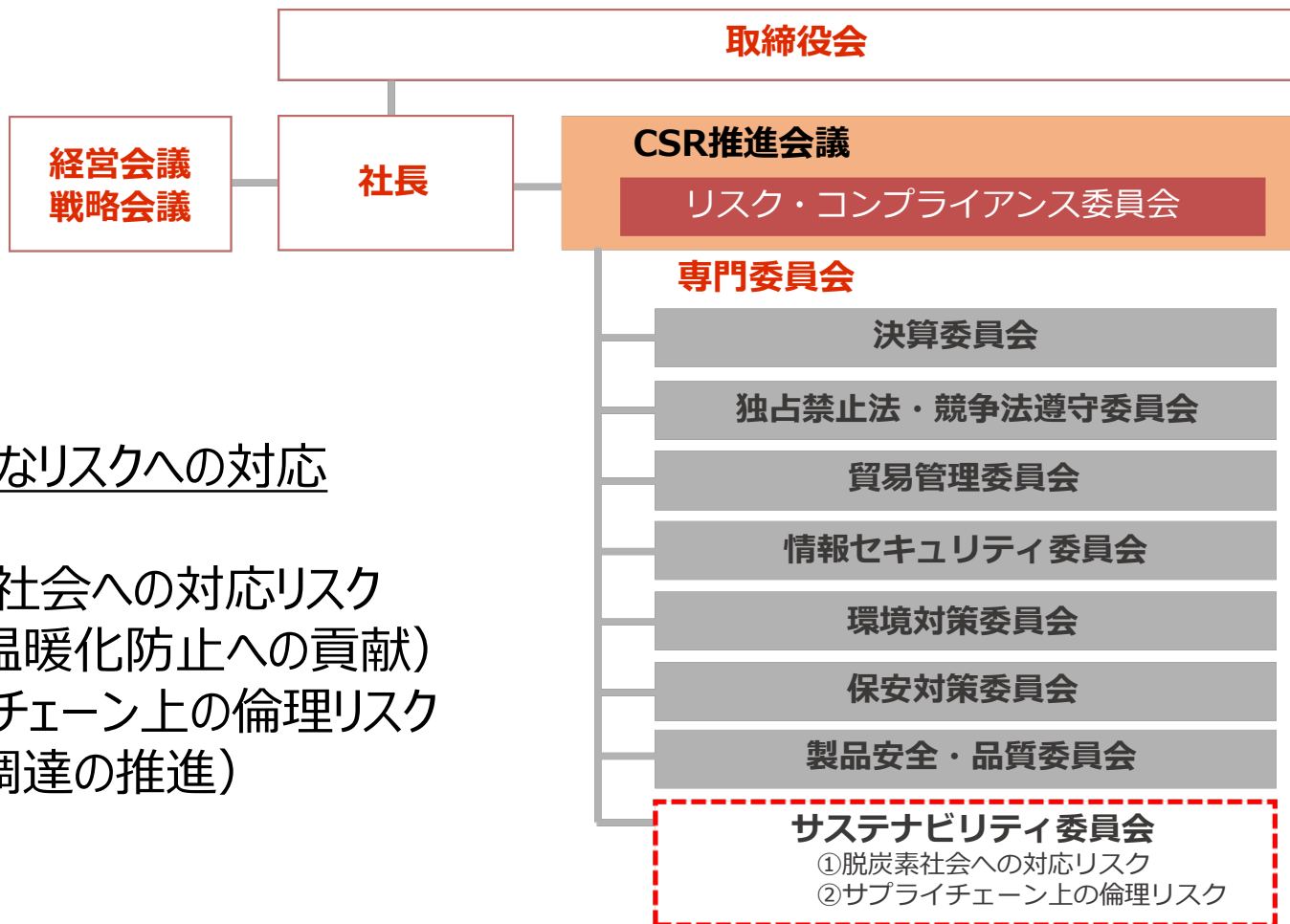


3. 地球温暖化防止への貢献



4. CSR経営の推進

➤ サステナビリティ委員会の新設

背景：新たなリスクへの対応

- 脱炭素社会への対応リスク
(地球温暖化防止への貢献)
- サプライチェーン上の倫理リスク
(CSR調達の推進)

5. 株主還元

- 2022年3月期の期末配当は、予定通り35円の配当を実施
- 2023年3月期の配当は、中間・期末とも35円の配当を実施予定

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022 予想
中間配当金（円）	10.0	25.0	35.0	35.0	35.0	35.0
期末配当金（円）	20.0	25.0	35.0	35.0	35.0	35.0
配当性向（%）	11.5	10.1	24.4	19.9	18.0	28.8

（注） 2017年度期末配当金には100周年記念配当10円を含む

もっと未来の人のために

TOKUYAMA 

④ 補足資料

1. 連結財務諸表（要約）
2. セグメント別業績予想
3. 営業外損益・特別損益・金融収支
4. 業績推移
5. 設備投資額・減価償却費推移
6. 有利子負債残高推移
7. フリー・キャッシュフロー推移



1. 連結財務諸表（要約）

損益計算書

（億円）

	2021年3月期 収益認識基準適用：無	2022年3月期 収益認識基準適用：有	増減	
			金額	%
売上高	3,024	2,938	△85	△3
売上原価	2,072	1,984	+88	+4
販管費	642	708	△66	△10
営業利益	309	245	△63	△21
営業外損益	△1	13	+14	-
経常利益	307	258	△49	△16
特別損益	1	17	+16	-
税前当期純利益	309	276	△33	△11
法人税等	56	△5	+61	-
非支配株主利益	7	1	+6	+78
親会社株主に帰属する 当期純利益	245	280	+34	+14

（注）差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

1. 連結財務諸表（要約）

貸借対照表

（億円）

	2021年3月末	2022年3月末	増減	
			金額	%
資産合計	3,867	4,332	+464	+12
流動資産	1,997	2,239	+241	+12
有形固定資産	1,240	1,396	+155	+13
無形固定資産	18	26	+7	+42
投資その他の資産	611	669	+58	+10

	2021年3月末	2022年3月末	増減	
			金額	%
負債合計	1,815	2,002	+187	+10
流動負債	833	1,023	+190	+23
固定負債	982	979	△2	△0
純資産合計	2,052	2,329	+276	+13

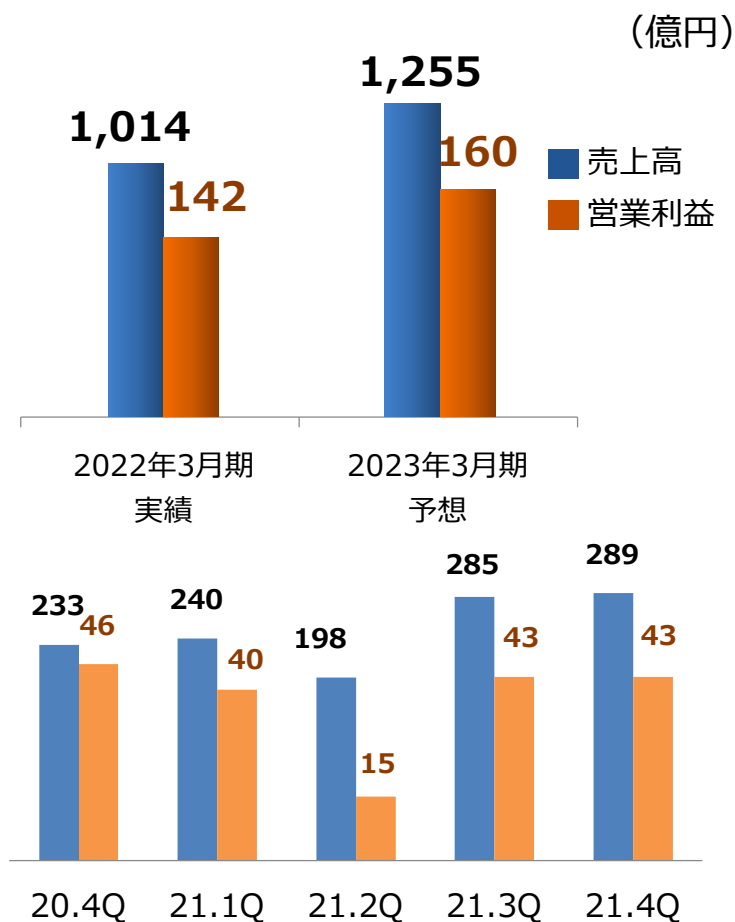
2. セグメント別業績予想

(当 期 比)

化成品

増収増益

定性情報



- ・原油・石炭等の市況価格上昇により、石油化学製品などを中心として原燃料コストが増加傾向。
収益面で変動リスクの大きい状況が継続
- ・販売価格修正、原単位や固定費の削減などのコスト競争力強化を推進し、収益確保に努める

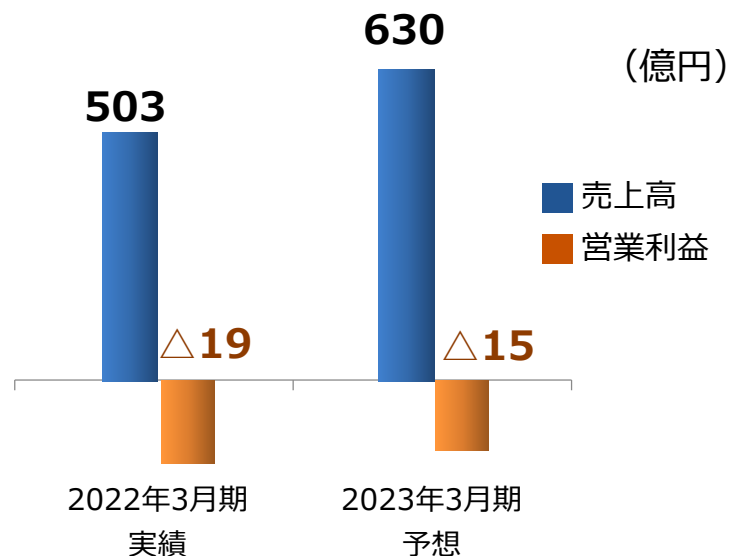
2. セグメント別業績予想

(当 期 比)

セメント

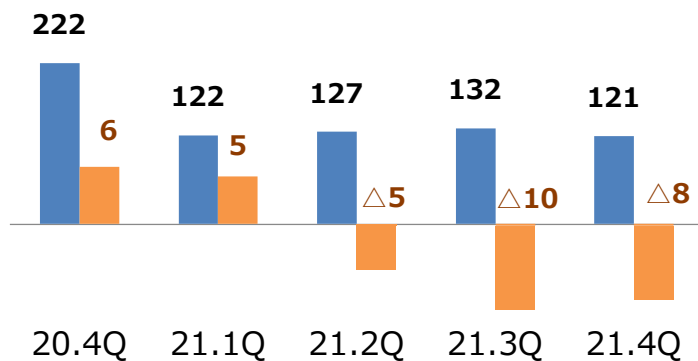
増収赤字縮小

定性情報



- 国内需要は、都市部の再開発工事の本格化等により緩やかな回復が見込まれるものの、公共投資の減少や工期の長期化などにより、2021年度並みにとどまると予想

- 原料価格の動向等、事業を取り巻く環境は不透明な状況が続くと想定。販売価格の修正を進めるとともに、製造コストの徹底した削減、及び各営業拠点における施策の実行等により、収益確保に努める



2. セグメント別業績予想

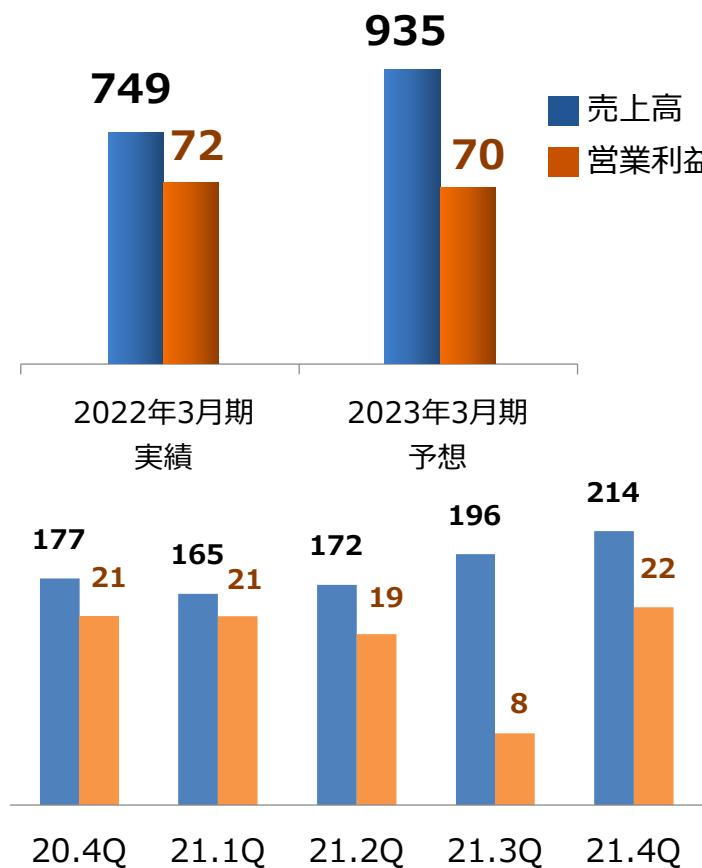
(当 期 比)

電子材料

増収減益

定性情報

(億円)



- ・半導体市場は、5Gの普及やデータセンターの増設を背景に堅調な推移を予想。半導体関連製品の更なる拡販に向けた積極的な投資を予定

(半導体向け多結晶シリコン)

- ・品質を更に追求し、他社との差別化を図る

(ICケミカル)

- ・台湾及び韓国の製造・販売拠点を整備し、需要拡大に対応したグローバルでの供給体制の確立に注力

(放熱材)

- ・既存製品の拡販及び新規品の製品化を進める

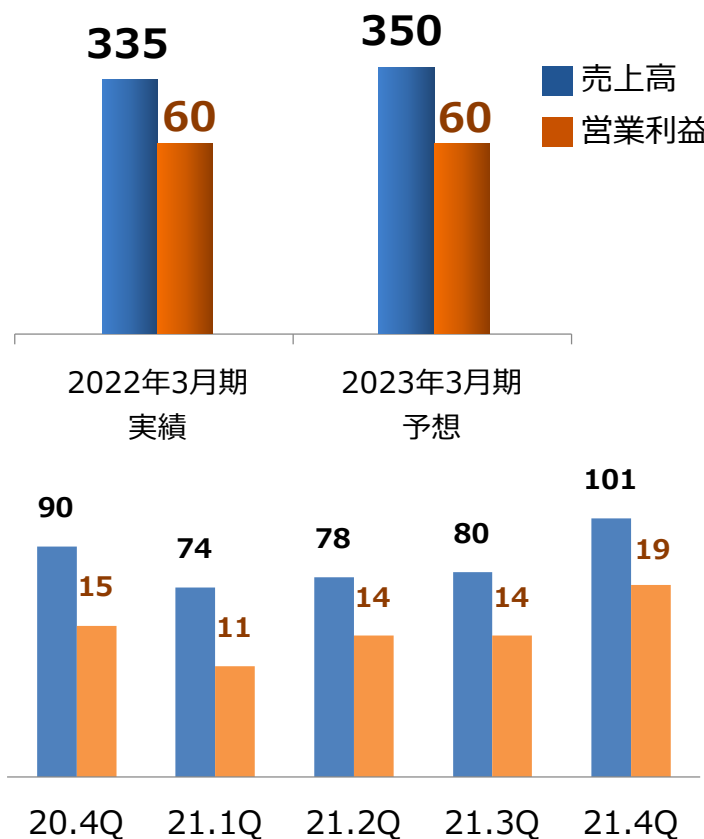
2. セグメント別業績予想

(当 期 比)

ライフサイエンス

増収減益

(億円)



定性情報

(プラスチックレンズ関連材料・歯科器材)

- ・海外向けを中心に堅調な推移を見込む。引き続き顧客ニーズや市場の変化に対応した新製品開発と販売活動に注力し、収益の拡大を目指す

(医療診断システム)

- ・グループ全体でリソースの活用・協業を進め、診断試薬開発をより一層強化し、事業を拡大

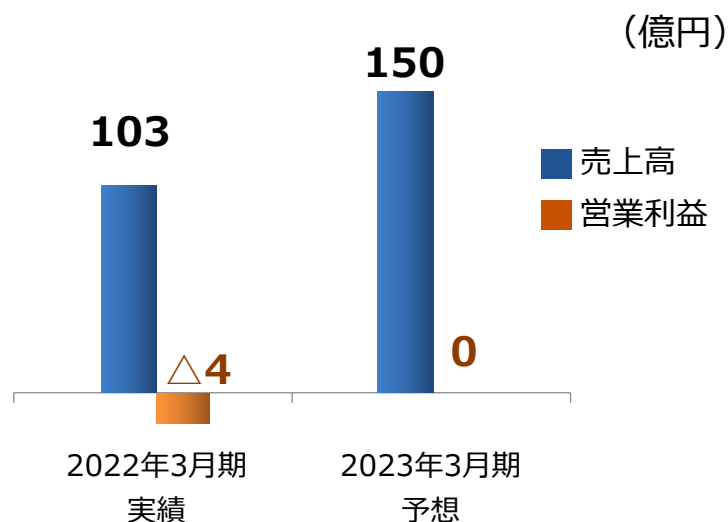
2. セグメント別業績予想

(当 期 比)

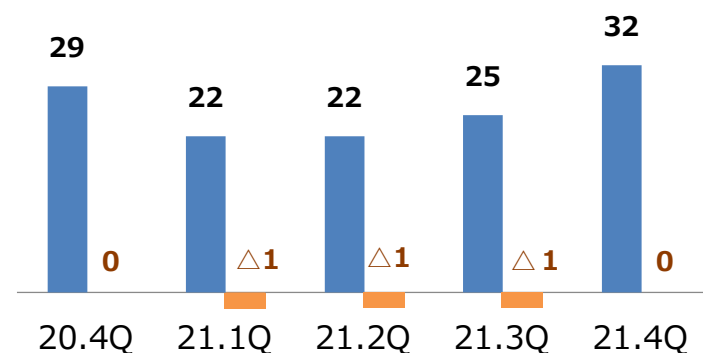
環境事業

増収赤字縮小

定性情報



- ・ 環境事業を将来の一つの柱とするため、イオン交換膜、樹脂サッシ、廃石膏ボードリサイクル等の既存事業の拡大に加え、CO₂排出削減の技術開発及び事業化を加速。事業ポートフォリオ転換のシンボルとして持続可能な社会への貢献と事業の成長を実現



3. 営業外損益・特別損益・金融収支

連 結 (前 期 比)

(億円)

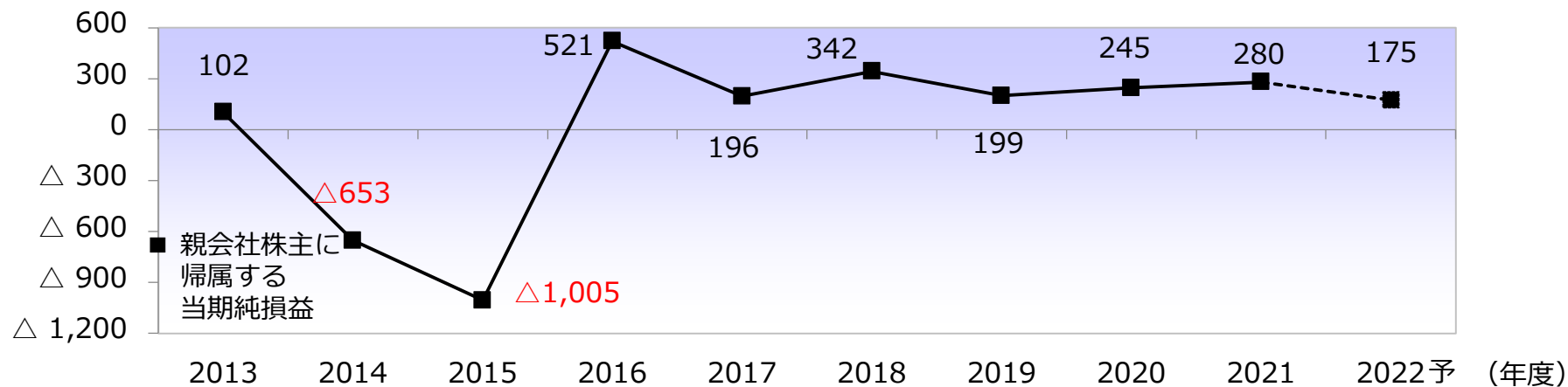
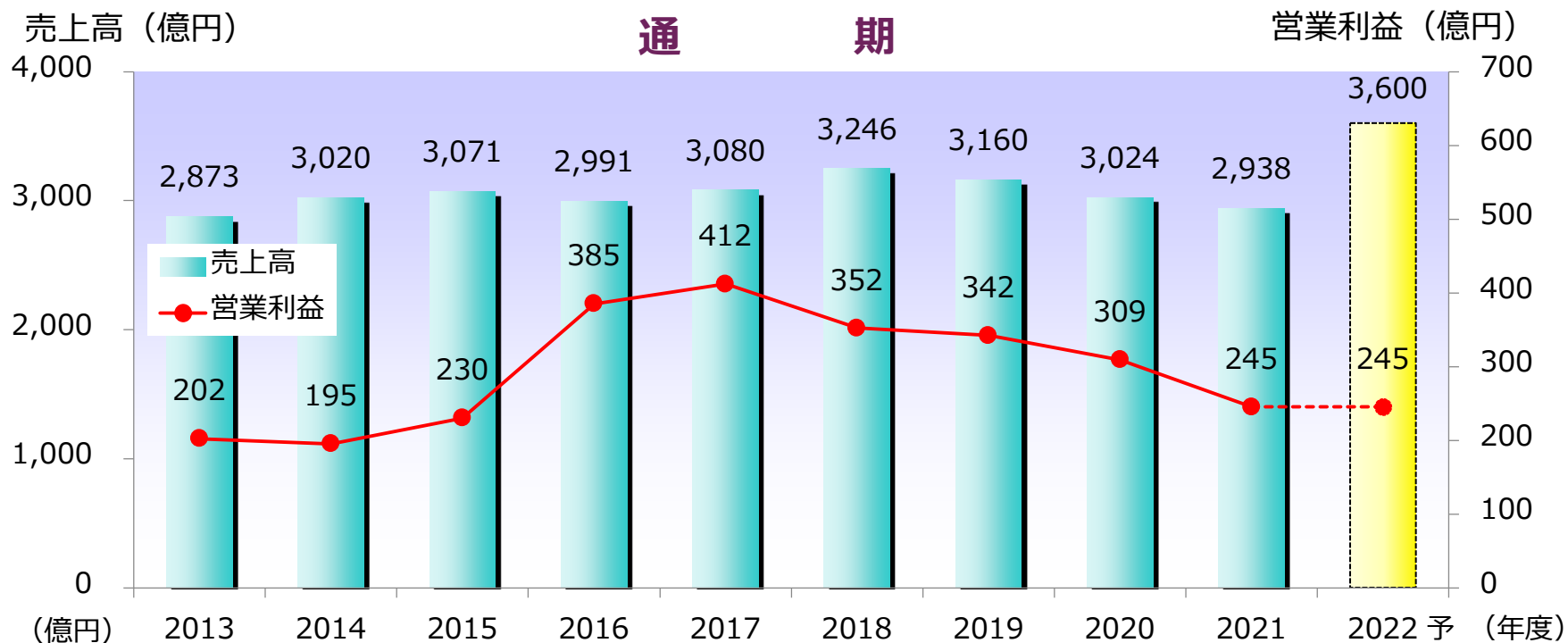
		2021年3月期	2022年3月期	差損益
営業外収益	受取利息・配当金	4	6	+1
	その他	46	62	+15
	計	51	68	+17
営業外費用	支払利息	15	13	+1
	その他	37	41	△4
	計	52	55	△2
営業外損益		△1	13	+14

特別利益	31	31	△0
特別損失	30	13	+16
特別損益	1	17	+16

金融収支	△10	△7	+2
------	-----	----	----

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

4. 業績推移

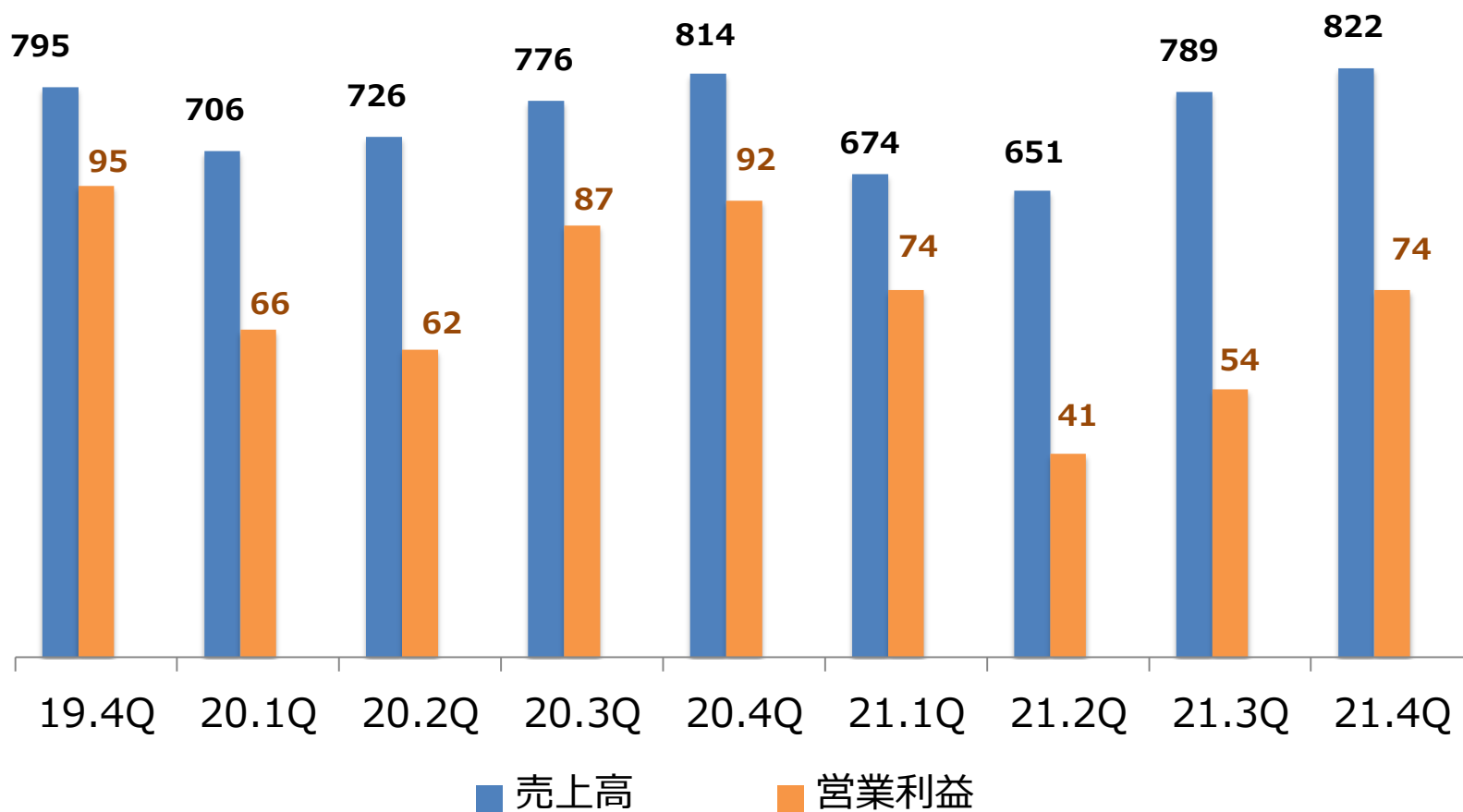


4. 業績推移

連結

四半期

(億円)

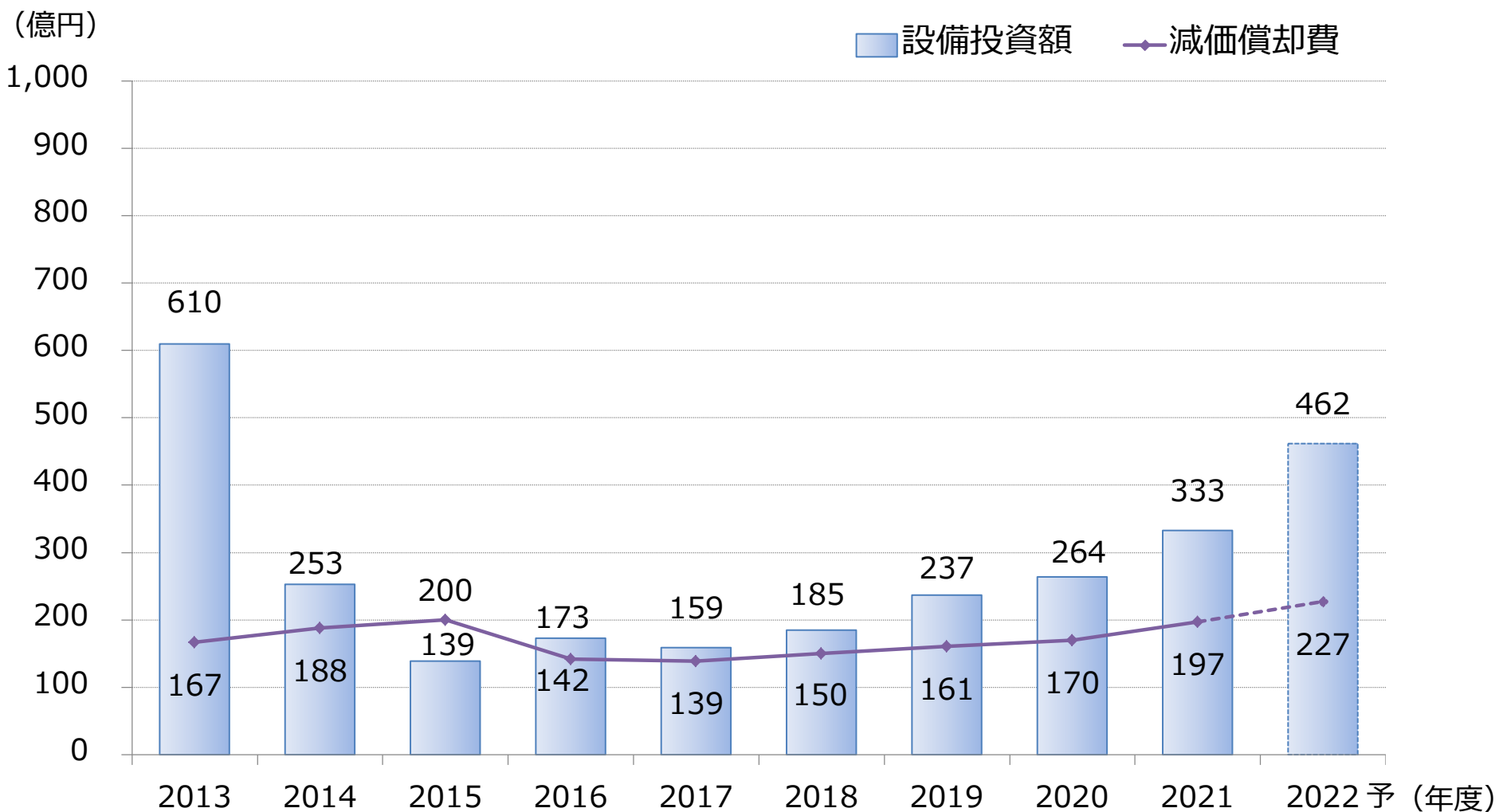


■ 売上高

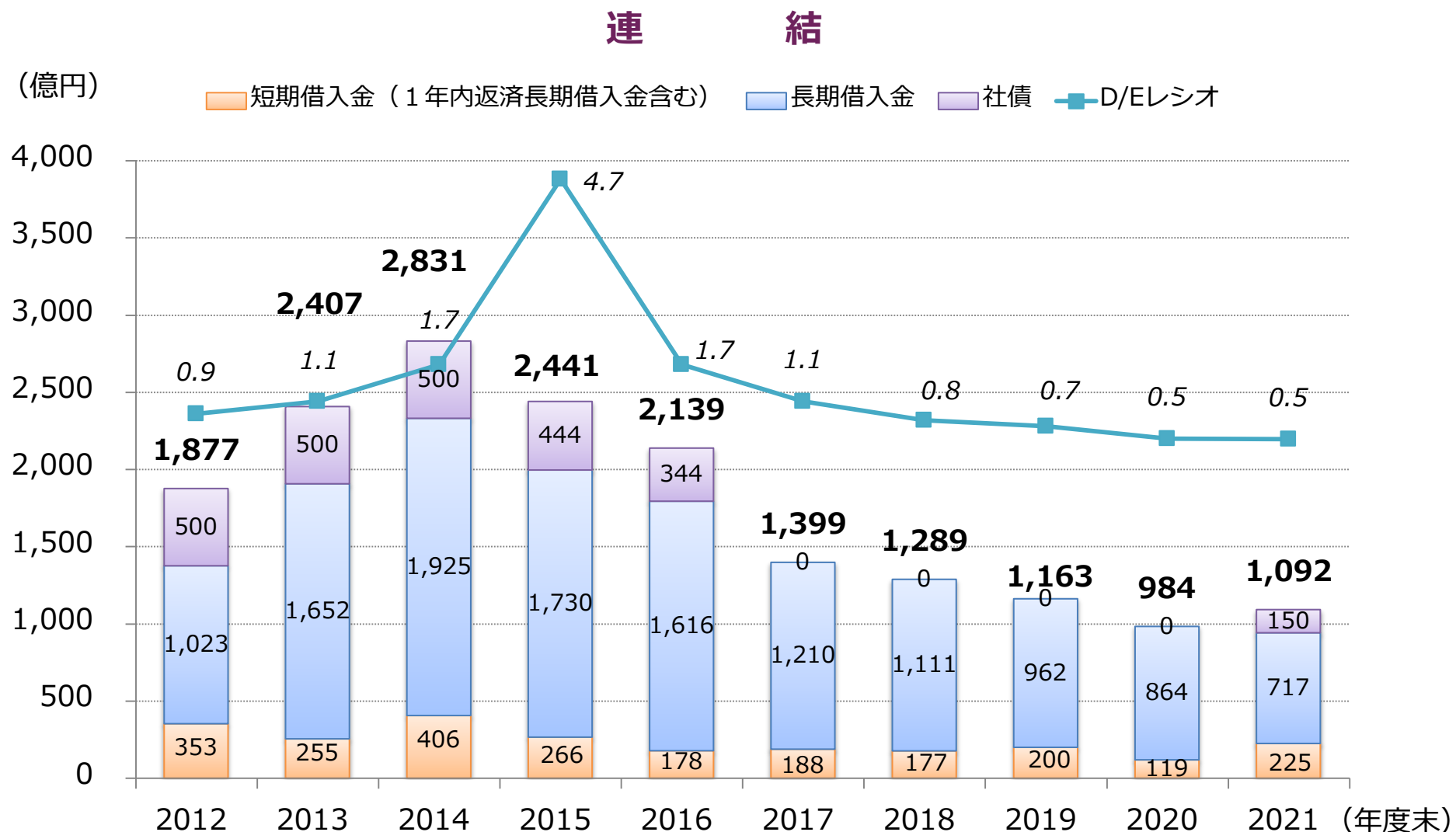
■ 営業利益

5. 設備投資額・減価償却費推移

連 結

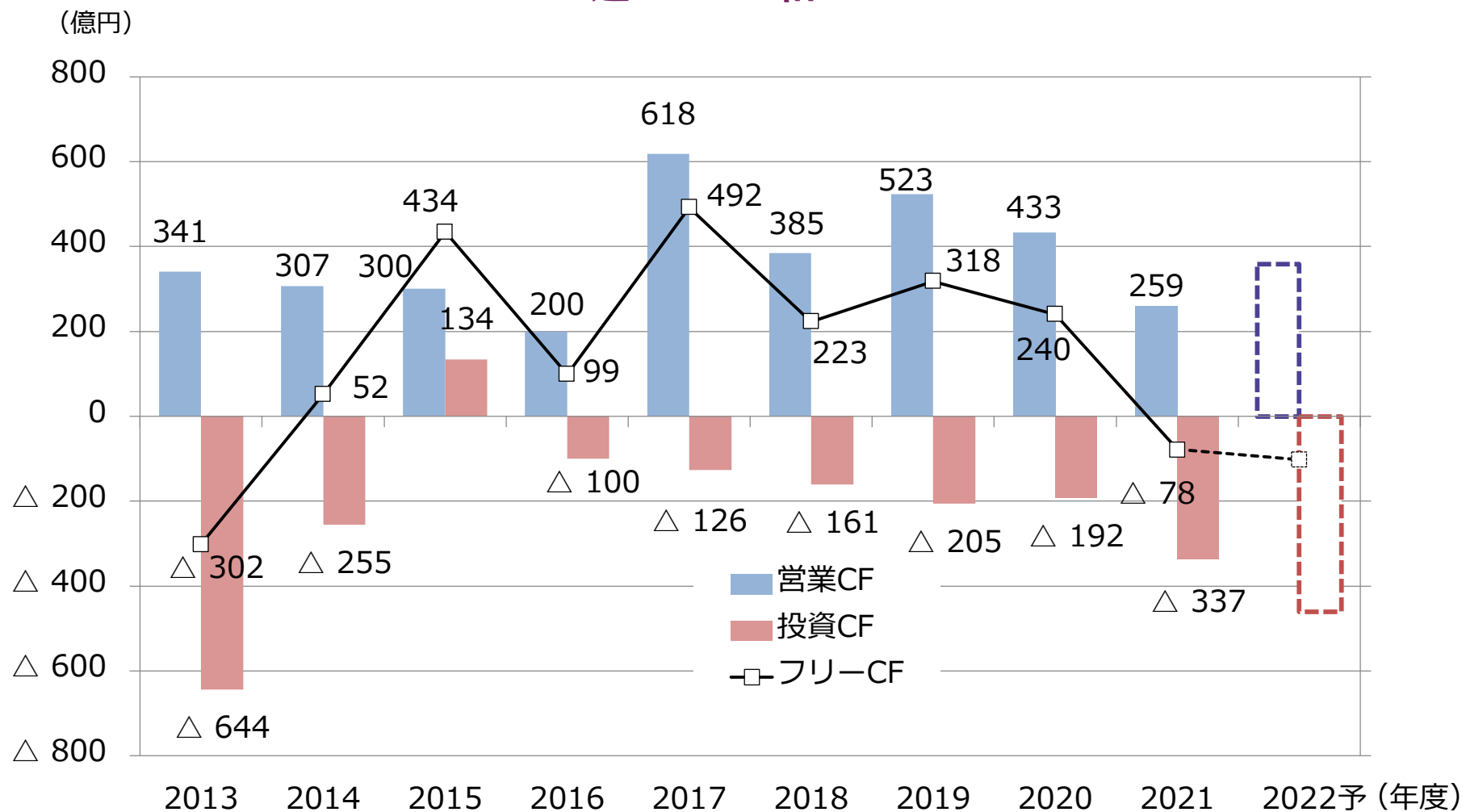


6. 有利子負債残高推移



7. フリー・キャッシュフロー推移

連 結



本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

また、当社の許諾なしに掲載情報を使用（複製、改変、頒布、販売、転載、出版等を含む）することはできません。

もっと未来の人のために

TOKUYAMA 